米沢興譲館 ＳＳＨ通信

第11号
平成25年4月1日
米興高SSH企画部

雪もとけ始めた3月20日、本校講堂にて、ＳＳＨ生徒研究発表会が行われた。生徒400名、保護者や地区の中学高校教員・ＯＢなど多数の参加者で会場が埋まった。

２年理数科の口頭発表では、自ら決めた課題を1年間研究し、その成果を発表した。1年生の発表では、1年間、「異分野融合サイエンス」で学んだ事柄をまとめ、来場者に対してポスターセッションを行った。

口頭発表には審査員が決める最優秀賞と、全校生徒の投票によって決める生徒賞があり、最優秀賞には「身近なイオン結晶を用いた圧電効果」が、生徒賞には「プロペラの枚数と角度の変化による風力発電の効率」が選ばれた。では、生徒の感想から本会を振り返ろう。

１年間の成果を表現・伝える　ＳＳＨ生徒研究発表会

12月に中間発表というものがあって、その日が近づいてくると段々皆焦ってきて、放課後残ってスライドをつくったり、休みの日に実験するために学校に集まったりしていました。私の記憶では生物班だけが計画的に進められていたような気がします。

1月には東北・北海道地区ＳＳＨ指定校発表会というものがありました。先ほどの中間発表で選ばれた1班が口頭発表、3班がポスター発表をしてきました。私たちの班は中間発表前の何倍も焦って準備をしていきました。他の学校の発表はまじめに聞いていたのですが、自分の頭が悪いのかよく理解できませんでした。それよりも会場である仙台三校の広さとか、あの学校私服だとか、そういうことに驚いた発表会でした。

そして先日、興譲館で課題研究発表会がありました。学年末考査の少し前にレジュメの締め切りがあったため勉強の時間を割いて完成させました。私たちの班は1月の発表会前にいろいろやっていたのですぐ終わりました。発表会当日は卒業生がきてくれて嬉しかったです。私たちの発表を聞いてくれてありがとうございました。

指導してくださった先生方、ありがとうございました。

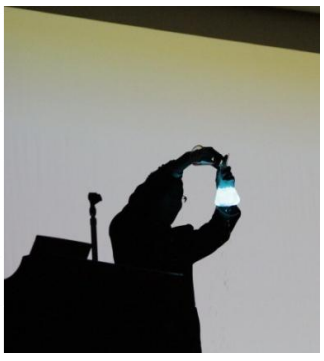
8月のパシフィコ横浜での発表に向けて頑張ります。

【生徒賞グループ】

ＬＳⅡで学んだこと　２年　細田玲（米沢七中出身）

平成25年3月20日にＳＳＨ生徒研究発表会が行われました。この発表会は僕たち2年理数科が1年間の研究の成果を披露する晴れ舞台でした。これまでに僕たち理数科は1月に仙台において行われた東北・北海道地区ＳＳＨ指定校発表会への参加経験などもあり全ての研究グループが1年間の集大成に相応しい発表を行うことができたとおもいます。

僕たちのグループは「プロペラの枚数と角度の変化による風力発電の効率」についての研究を行いました。その結果、僕たちが設定した条件の中ではプロペラの枚数が多ければ多いほど発電効率が良く、角度は24度が最も効率が良いということがわかりました。どのようにプレゼンをすれば、わかりやすくかつ面白く伝えられるかということに重点を置きました。具体的には「もし、興譲館のマラソン大会優勝者である酒井君が発電機を背負い走ったら？」などと身近な人物を登場させ聞き手に親近感を持ってもらえるようにしました。そして、聞き手の反応を見ながら接続詞の後に少し間を取るなどして、理解してもらう時間を設けました。自分たちから聞き手へと「知の。」のプレゼント」を与えられるように工夫した結果、生徒賞という素晴らしい賞をいただけたのだと思います。



最後になりますが、このような機会を与えてくださった先生方、ありがとうございました。

ＳＳＨ生徒研究発表会に参加して

普通科からみた生徒研究発表会

２年　酒井佑貴（米沢五中出身）

このＳＳＨ生徒研究発表会に参加することができて、とても良い経験ができました。今年度は昨年度と変わってＳＳＨの指定校となり、2年理数科のみならず、1年生の発表もあり、僕自身も新たな発見がたくさんありました。

2年理数科では、1年間という短い期間でありながら、どの班の研究もすばらしいものでした。1年生の発表では、ＳＳＨ活動を通した学習内容のポスターセッションで、沢山の班があるものの、どれも中身の濃いものでした。テーマが科学だけでなく、「法と科学」や「英語発音と科学」など、一見すると科学とあまり関連性がないように思えますが、実は密接にかかわっているということを知ることができました。この発表会を通して、科学の奥の深さを改めて感じる事ができました。僕も将来、こういった研究職に就こうと考えているため、このような発表会に参加できて本当によかったです。

ＳＳＨ生徒研究発表会に参加して

１年　渡辺倫孝（米沢三中出身）

圧巻の一言でした。高校生でここまでのレベルの研究をするのかと感嘆の声が漏れました。この発表までには、ユニークな発想、地道な努力があったのだと想像ができました。質疑応答では、鋭い質問に対してもしっかりと対処できていてさすがだなと思いました。

僕達のポスターセッションは、二年生に比べたら見劣りしますが、個人的には満足できるものができたと思います。作品製作において、時間が足りなく時間外を使ってでも作り上げたことや、ポスター作成の時に時間を惜しまずに「見やすい」「興味を持ってもらいやすい」ものを作ろうと試行錯誤したので、このような満足感があったのだと思います。

来年は、一年生が同じ気持ちを抱けるような研究をして、何より自分達がその研究を楽しんでいきたいと思いました。